

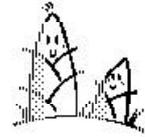
社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

絆
きずな

第63号 5月号

購読料1部100円

(会員は会費に含まれています)



ホームページアドレスが変わりました!



発行: 社団法人日本自閉症協会 発行責任者: 宍戸良朗
支部長&事務局: 河村舟二 〒639-1055 大和郡山市矢田山町84-10
TEL&FAX 0743-55-2763

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

とんでもない

間違った自閉症の見方!

とんでもない情報が朝日新聞社のインターネット <http://www.asahi.com/> に掲載されています。日本自閉症協会としても早急に対応すべく、現在常務理事の方で文書を作成し、現在三役と研究会長(山崎先生)にご確認をいただいております。確認が取れ次第、朝日新聞に提出するとともに、すぐにホームページなどでお知らせとのことです。自閉症協会本部では、内山登紀夫先生が早速朝日新聞社編集長宛てに抗議文を出されたようです。問題の朝日の内容は次のようなものです。

テレビがつくる言葉遅れ

運動機能や知能に問題がないのに言葉をほとんどしゃべれず、仲間と遊べない子どもが増えていく。このような「自閉症そっくり」の子どもたちを、川崎医科大学(岡山県倉敷市)の片岡直樹教授(小児科)は「新しいタイプの言葉遅れ」と名付けた。

原因はテレビやビデオ漬け。「テレビをやめ、母子教室などであやしたり、じゃれあったりして、愛着関係を育てる。まねや指さしができるようになると、心が通じ合う。3歳前までは治る可能性が高い」と片岡さん。

はっきり確信したのは94年だった。2歳2カ月の女兒は目線が合わず、呼びかけは無視、指さしもしない。生後6カ月からテレビ、ビデオと、おもちゃでの1人遊びばかり。手がかからないと喜んでいた親も、意味不明の言葉しか話さないの心配して受診した。同じような子どもが次々と片岡さんのところに集まり、200人を突破。01年夏「テレビ・ビデオが子どもの心を破壊している!」(メタモル出版)に治療経過などをまとめ

た。

内容はよくてもビデオ、テレビ、テレビゲームは一方通行の刺激。人間的な接触が不足すると、乳児期で最も大切なコミュニケーション能力の土台ができなくなる。1歳まで正常、半年間の学習ビデオ漬けで言葉が消えた例もある。

自閉症は脳障害が原因とされている。今は200人に1人で、40年前の25倍という異常な増え方だ。片岡さんは、増えた分の多くは実は治る可能性が高い「言葉遅れ」で、やはり急増中の「注意欠陥・多動障害(ADHD)」や「学習障害(LD)」の児童の大半は、その軽いものと考えている。(編集委員・田辺功)

この今日の自閉症に関する認識とは全く反する問題の学説を説く教授は片岡直樹(かたおか なおき) 昭17年生 昭和42年岡山大学医学部卒でホームページの自己紹介に次のようにあります。専門: 消化器 新生児・未熟児 内分泌 心身症 所属学会: 日本小児科学会評議員 日本小児保健学会評議員 日本未熟児新生児学会評議員 日本小児心身医学会評議員 こどもの生活環境改善委員会委員

治療している主な疾患: 心身症: 学説の中身は、テレビ・ビデオ・テレビゲーム・コンピュータは子どもの言葉と感情の発達を阻害しています。今急増している自閉症と注意欠陥多動性障害は予防可能です。乳幼児健診: 新生児から6歳の就学年齢までの育児、発達、心理および栄養に対する相談をおこなっています。未熟児の退院後指導、リハビリテーションなどの早期治療に対応しています。今興味を持っていること: テレビ・ビデオ・テレビゲーム・コンピュータはこどもの言葉と感情の発達を阻害する。今急増している自閉症と注意欠陥多動性障害は予防可能である。大人や国家は何をなすべきだろうか。

テレビ・ビデオの長時間視聴が関与した言語発達遅滞児達: 相次ぐ少年事件、家庭内暴力、不登校、ひきこもり、学級崩壊、自殺、援助交際、家庭崩壊、虐待など子どもたちをめぐる危機的事態が噴出しつづけています。「殺人やそれを行う自分の心理がどういうものが経験して知ることが必要だ」と思い計画しました。定めた目標を達成することで成長できると考え、一度はためらったがやり通した。2000年5月1日愛知県の十七才の少年が語ったことばです。冒険、ひとり旅など青春の翼をひろげる行動があつてよい年頃です。「私たちが夢や希望を持てるために何より必要なことは、私たちの周りに魅力ある人たちがいるということです。」これはある高校生の集いの中で語られていたことばです。自己を生み出す激しい陣痛の最中にあるすべての青春に対して、私たちが魅力ある大人であらねばならないのでしょうか。否、大方の大人は分別をわきまえた常識人であると自負していることを知っています。人生は生きる値打ちがあるということ私たちが皮膚で感じていたはずです。今、少年法の改正、教育改革、果てはフロイトの情緒的発達のみなおしまで議論伯仲していますが、それで子どもたちの危機的事態は解決するのでしょうか。40年来人類(主に文明国家)に急速に浸透した電子テクノロジーの世界は何を変えたのでしょうか。IT革命は確実に世界を支配するでしょう。一方、子どもの心は破壊され続けるでしょう。子どもまでがテレビに入り浸り、ビデオにのめり込み、コンピュータに没頭するこの膨張する電子頭脳時代の中で、子どもはどのように育つのでしょうか。「キレる」子どもたちの問題の方がはるかに大きいかもしれませんが、コミュニケーション手段としての言葉の遅れはもっと人間の根源的な魂に関わることなので、今回は乳幼児の言葉遅れのみをとりあげました。参考資料:片岡直樹著 テレビ・ビデオが子どもの心を破壊している!メタモル出版

以上のような問題文章をインターネットで公開しています。



会員紹介(療育部編)

こんにちは。井出大貴(3才)、県立心身障害者リハビリセンター「わかくさ愛育園」に通って半年が過ぎようとしています。

言葉が遅いかな...とは思ったりもしましたが、第一子ということもあり、3才までには言葉が出るだろうくらいの、のんびりした両親でした。それくらい他の面では、普通に成長していた様に思います。

自閉症であるが故に、うそをつくことが無く、母親の表情や言葉を丸ごと受け入れ、喜んだり、傷ついたり、本当に心のきれいなまっさらの状態のわが子を見るにつけ、私も大貴の信頼にこたえなければと、日々思います。

年子で下に妹がいますので、大貴、妹両方に充分なことがしてやれているか疑問はありますが、他人にはなかなか興味がもてない大貴にとって、妹の存在は、遊び相手として、また親以外の家族の一員を認識させるものとして、とてもいい結果を生んでいるようです。

身辺自立はまだまだできていません。また、母子分離もまだまだ無理なようです。どう教えてやったら大貴がそれを獲得していけるのか、手探りですが、一生懸命主人と模索しています。

周りは健常児のお子さんを持つお母さんばかりの中であつて、自分だけが取り残されてしまうような孤独感もありましたが、リハセンに行くようになり、同じ年頃の境遇のお母さんたちと話せる機会を得るようになってから、心も癒されるようになりました。大変勉強になり、勇気づけられます。

会員の中で、大貴は年少の方かと思えます。これから幼稚園、小学校にあがって行くときの不安なこと、兄弟のことなど、会員の皆様がどう乗り越えてこられたか、教えていただければ幸いです。

どうぞよろしく願い申し上げます。

平野 允(まこと) 3才

平成12年1月31日生まれ。

パパ、ママ、兄(5才)の4人家族です。

2才10ヶ月の時に奈良のリハビリセンターで、自閉性障害の疑いありと診断を受け、始めは病名の意味すら解らず、今後どう対処すれば良いか悩む毎日で苦しんでいました。しかし、一時保育の先生や園長先生に相談に乗っていただき、やっと

允の療育に、前向きに取り組むことができました。家族、保育園の先生方の協力により、この春より保育園に進むこともできました。毎日、太陽のように明るく笑顔いっぱい保育園に行く姿を見ると、允が私たちを療育してくれているような気がします。

今後、いろんなことに悩むこともありますが、やさしい兄や家族、保育園の先生方の協力とともに、スクラムを組み、笑顔を信じて前進していきたいと思います。

今後共、御宜しく申し上げます。



最近のメーリングリストから

朝日新聞にのっていたものです。奈良知事はどんなお考えなのでしょうね？河村

私の視点 障害児教育 二重学籍の実現目指して
埼玉県知事 土屋義彦

障害のある人もない人も、同じように生活できるようにする「ノーマライゼーション」の実現が、このところ声高に叫ばれている。にもかかわらず、我が国の学校教育では、障害のある子どもとない子どもを分けた教育システムが、いまだに存在している。

こうした実態に疑問を抱いた私は先日、「全障害児に普通学級籍を」という構想を打ち出し、実現に向けて、強い決意を表明した。障害の有無にかかわらず、共に育ち、学び、互いの存在を認め合い、人格を尊重し合うことは、成熟した民主主義社会において不可欠だと考えたからである。

国会議員だった75(昭和50)年3月からいままで、社会福祉法人埼玉県身体障害者福祉協会の名誉会長を務めてきた。障害のある方々と直接触れ合うなかで、社会で当たり前に住みたいという強い思い、切実な訴えをお聞きしてきた。95(平成7)年にはインドの首都ニューデリー郊外の障害者施設を訪問。障害のある子どもと、ない子どもと一緒に跳んだりはねたりしながら、学び、遊ぶ姿を目の当たりにし

て、これこそ教育のあるべき姿だと感銘を受けた。

埼玉県でも、障害のある子どもと、そうでない

子どもが、机を並べて学べる教育ができないものか。そう考え続けた結果が今回の構想だ。

障害児が普通学級に籍をおくことのプラス面を考えてみたい。障害のない子どもは、多様な個性や人格に接することを通じて、思いやりの心や豊かな人間性、社会性を自らの内にはぐくむことができる。一方、障害のある子どもは、他の子どもと同じように社会生活を送る自信が持てるだろう。

こうした取り組みは、なにも障害児の教育のあり方にとどまるものではない。いじめや学級崩壊、暴力行為といった今日の教育が抱える様々な課題を解決するための、ひとつのヒントを示すのではないか。

可能であれば、すべての教育活動を一緒にするのが理想だ。しかし、実際には様々な困難や戸惑いがあるだろう。そこで最初のうちは、入学式、運動会、遠足といった学校行事などで、少しでも共に過ごせる環境をつくりたい。子どもの障害の程度によっては、盲学校やろう学校、養護学校といった専門の学校で学ぶ方がよい場合もある。そのうえで、一緒にできる活動があれば、自分の学校・学級に戻って行うのである。地域でも自分の学校、学級の子どもたちと一緒に活動してもらおう。その際、指導者は「よその家の子」ではなく「自分の家の子」であるという考えをもつことが大切だ。構想を実現するためには、「ふたつの学籍を取得するのは法の想定外」とする文部科学省との調整が必要だ。さらに、教職員の定数や施設・設備などの問題で大きな困難が待ち受けている。今後、教育委員会で中身を具体的に検討し、実現に向けた取り組みを一步一步進めていきたい。ノーマライゼーションを定着させるのに最大の関門は、人々の意識の問題だ。今回の構想が心のバリアを取り払い、社会全体の意識の変革にまで及ぶことを切望してやまない。実現すれば、だれもが生まれてよかった、生きていてよかったと思える福祉社会づくりにつながるとともに、社会の発展に貢献できる人間性の豊かな人材の育成にもつながると信じている。





田中 康子です。

この話題は当事者？の家じゃないとわからないかも・・・で書きこみます。

私の地元、S町(にしておきます)では統合教育と銘打って10年以上まえから、普通学級のなかで、障害児もすごしています。

埼玉のように2重学籍ではないのですが、表向き県には障害児学級がある、ということになります。・・・が教室がないのです。わが息子はあくまでの6年2組のけんちゃんなのです。先生は学級担任に障担がいます。ここまで聞くと、ええなあーの聲が聞こえてきそうです。

好い面、問題面両方聞いてくださいね。

まず好い面・・・埼玉の知事さんのいうとおりなのです。みんなの中であつまりまえのように過ごす。ごくごく自然なことなのです。普通？の人のようにあつかってもらえる心地良さは確かにあります。普通学級の父兄ともつながりができる。これすなわち、地域で過ごすということの基本。友達たちも障害のある子に対する、慣れ・・・？もできる。障害のある本人も社会を知る良い機会。表から見るともう理想的世界。

で問題面・・・あたりまえのように過ごせる？・・・いやいや親としてはそれなりの気はつかうのです。あたまがゆえに、みんなとおんなじゆえに学校の役、地域の役逃げられないどころか、積極的に引き受けなくては、認めて(みんなと、同じと)もらえませぬ。

どこが一緒やねん・・・と叫びたくなる。明らかに息子は普通じゃない。

目をつぶっても、逃げててもこれは事実。それは学校行事でいやというほど見せつけられる。

運動会なんて失笑もん。「あの子変や」など知らんお年寄りに言われる。そりゃそう、みんなとは違うことしてるもの。いくら担任が配慮？してくれてもその部分は逃げられません。根性のすわった私ば「いやあ、あいつなりにはようやってるよお」と本気で思うのです。同級生のお母さんたちもそう言ってくれる。まあそれですべてオーライなんです。

私は笑ってますがこれが現実。違って当たり前・・・といいながらみんな一緒・・・なんかわからん。統合教育って。自閉症の専門知識のあるなしに関しては、どこの学校も一緒でしょ。

その先生の学ぶ意欲・・・それだけです。

環境面では最悪??かあ。うちは図太くみんなの中でもくもくと自分の作業、学習をこなしていつてるのです。パニックもほとんどなし。不思議でしょう。但し始めからそうではなかったです。

今まで5年間の積み重ね・・・先生とも何度も話し合い、悩み・・・の繰り返し。長かったあ。

さて行政面。町の教育委員会と話した時。統合教育について教育委員会と現場の温度差を感じました。

これって現場の先生のポリシーだけでもってるもんかいなあと思ってしまいました。

案の定、介助の先生の数減らしばかり考えてるのか、さっそく今年は減らしてきはりました。

うちはとなりのクラスのLD君と先生は兼任になりました。

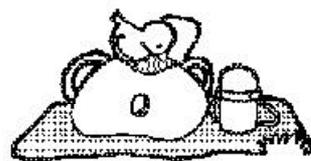
一応いままでは1対1対応。先生の体が心配。きついやろうなあきつい言い方したら綺麗ごとばかりではすまへん現実があります。

でもそれは社会全体のもので、早めに親子とも慣れとくのもええやんと私はおもってます。(私には耐えられへんと言う声が聞こえてきそう・・・)

社会って優しいところもあるけど、きついつともありますよね。自閉症協会ってそういう社会面に、アプローチしていく会ですよ。圧力団体でもないし、就職あっせん団体でもないし・・・会員さん一人一人の地域での頑張りも必要ですよ。

そのための知恵いっぱい教えて欲しいです。

皆さんのMLへの書きこみ期待してます。



編集後記

自分自身大学で社会福祉を学んだとき、「社会福祉と戦争は、相いれないもの」と教わりました。先の大戦での時の政府の政策でも明らかです。私たちの生活は、政治や政策と密接な関係を持っています。社会福祉を充実発展させるためには、そのことをしっかりと見据える必要があります。支部ニュースについての感想、ご意見等がありましたら、宍戸(0742-49-3855)までか、または、最寄りの支部役員までお願いします。

夏のキャンプ参加者募集



今年度の夏の行事は家族でお泊りを楽しむことになりました。
お父さん、兄弟姉妹の参加もお待ちしております。

- 開催日 2003年 7月28日(月)～29日(火)
 開催場所 鈴鹿峠自然の家
 三重県鈴鹿郡関町大字沓掛123番地
 05959-6-2001
 参加対象 自閉症者とその家族
 参加費用 追って連絡します。(食費実費と寝具代)
 移動方法 団体バス利用の場合 近鉄奈良駅前、天理駅前
 2箇所にとまります。
 自家用車で現地集合も可。

日程	7月28日(月)	7月29日(火)
10:00	近鉄奈良駅前	7:00 起床
10:30	天理駅前	8:30 朝食
12:00	関町観音寺公園で昼食 休憩	9:00 工作 散策
1:00	自然の家 チェックイン	～
1:30	プール 工作遊び 散策	11:00 解散
3:30	夕食準備	バス出発
6:00	夕食	途中 休憩
7:00	順番にシャワー	12:00 天理着
8:00	懇親会、花火	12:30 近鉄 奈良着
10:00	就寝	

集団行動よりも出きるだけ本人が選択して行動できるように・・・と思っています。尚兄弟姉妹へのボランティアさんの確保は難しいかもしれません。

当日の日程は天候などで、変更あり。

申し込み方法

参加問い合わせは連絡網上の役員まで

6月1日締め切り

鈴鹿自然の家は廃校を利用した施設です。食事は自炊、寝具も持ちこみです。貸し寝具は申し込みの時に受け付けます。

